

書窓

Shoso

No.419

2020.3

太子町立図書館 編集発行

〒671-1561

兵庫県揖保郡太子町鰯
1310 番地 7

Tel (079)277-1580

Fax(079)277-5684

子どもの本だな 77

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

ふしぎなたいこ

石井 桃子 ぶん 清水 崑 え (岩波書店)

げんごろうさんは、鼻を高くしたり低くしたりできるたいこを持っていました。ある日、鼻がどこまで伸びるかためしてみたくなり、どこどこたいこをたたいて、自分の鼻を伸ばしました。鼻は手の長さくらいになり、電信柱くらいになり、木よりも山よりも高く、雲の中へによきによきと伸びていきました。ところが鼻は、天の川の橋の欄干に縛りつけられてしまい、げんごろうさんは慌てて鼻を縮めました。鼻が短くなるにつれ、体はどんどん地面から持ち上がり始めました…。

鼻がどんどん伸びる様子がおかしく、テンポよく進むお話にひきこまれます。黒と赤茶色を使った昔話風の絵も、お話の雰囲気合っています。表題作のほかに「かえるのえんそく」「にげたにおうさん」と日本の昔話が3編入っています。どのお話もユーモアたっぷりです。読んでもらえば4～5歳くらいから。(池田)

シロクマ号となぞの鳥 ランサム・サーガ12

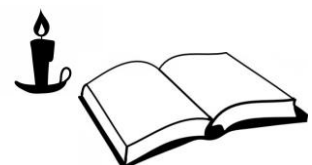
アーサー・ランサム 作 神宮 輝夫 訳 (岩波書店)

帆船シロクマ号は長旅の汚れを落とすため、小さな入り江に入りました。探検に出かけた「船の博物学者」ディックは、この辺りでは巣を作らないとされる鳥のつがいと巣を見つけました。早速、近くの港にいた学者に確かめに行きますが、彼は鳥の敵、卵の収集家だったのです。巣のありかを聞き出そうとする収集家から逃げるように帰ってきたディックは、新しい発見を証明するために営巣の写真があると主張し、シロクマ号の仲間は協力を誓います。鳥を驚かさないように作った網に草を取り付けて岩にかけ、収集家を出し抜くためにジョンがディックになりすまし、工夫と計画を尽くし立ち向かいます。島の原住民も巻き込みながら、最後には「博物学者」として鳥も巣も卵も守りきり、大きな喜びと満足を得ます。シロクマ号の子どもたちの冒険を通して、自然と生命の尊厳を味わう物語です。シリーズ最終巻、11歳位から楽しめます。(西村)

3月	4月	3・4月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
12日	9日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
19日	16日			原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
26日	23日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~15:50	吉福 公民館 16:00~16:30

<お知らせ>

3月の「絵本の時間」
「おはなしの時間」は、
中止します。
(新型コロナウイルス
感染症対策のため)
ご理解のほど、よろし
くお願いします。



『芝園団地に住んでいます』 住民の半分が外国人になったとき何が起きるか

大島 隆 著

明石書店

233 頁

2019 年 10 月刊 1,600 円

(請求記号) 365.3

2016年の米国大統領選で、排外主義が広がっていく米国を目の当たりにした新聞記者の著者。日本で、さらに外国人が増えたらどうなるのかという思いをもち続け、住民の半数以上が外国人の芝園団地に移り住んだ。40年前に入居した日本人住民の高齢化と減少が進む一方で、1990年代から外国人が増えている。その8割ほどが中国人で、IT技術者とその家族が多い。自治会、大学生による多文化共生の交流活動で注目されているが、実際の住民感情はどうなのか？

団地では8月にやぐらを組み、祭りが催される。高齢の自治会役員には負担が大きい。役員たちは中国人の運営、準備参加には乗り気ではなく、中国人住民もSNSでの参加募集にこたえてくれない。ところが、祭りを楽しむ大半が中国人という状況に、日本人住民のなかに自分たちの祭りにただ乗りをされていると「もやもや感」がつきまとう。著者自身、片づけをする自分たちの傍らで宴会をする中国人にももやもやを感じてしまい、動揺する。

書道教室、三味線の演奏会、雛祭りのイベント。顔が見えれば、互いの負のステレオタイプから抜け出し、つながれるのではと、大学生ボランティア団体が自治会と連携し、住民の交流を図る。しかし、団地では少数派になった日本人への支援を考えてほしいと、学生たちの活動を冷めた捉え方をする住民もいる。

団地の少数派である日本人が「わたしたちの団地」を外国人に侵されていく脅えや不安は、米国の白人が感じているものと同じ。日本人住民、中国人住民、大学生、それぞれの立場、考えが頭では理解できるが、自分の身近な問題になったときの自分はどうかだろう。また、共存ではなく共生を目指すとき、日本の譲れない核はなにかという問いにじっくり取り組んでみようと思う。

(竹内)

3月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

4月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

- * カレンダーの×印は休館日
- * は館内整理日、返却のみ受付 (10:00~17:00)
- * 開館時間は 10:00~18:00
金曜日は 20:00 まで開館

地下水

今年の冬は例年になく暖冬であった。うだが、それでも明け方や夜はたいへん冷え込んだ。毎日寒さで頬を赤くしながら通勤していたが、最近では冬の気配も遠ざかり、春の陽気を感じる季節になってきた。特にお昼時の日差しが程よく暖かいので、昼食後はいつも眠気との戦いになる。

そんな晩冬の候、初めて「絵本の時間」を担当することになった。幼児とその保護者を対象に絵本の読み聞かせを行う仕事であるが、選書が想像していた以上に奥深く難しい。例えば優れた絵本を選んでも、幼児の発達段階に合っていないければ、全く聞けなくなってしまう。しかし、発達に合った絵本を選ぶことができれば、驚くほどの集中力を見せてくれる。「わにがまちにやってきた」を全く聞けなかった2歳の子どもが、『ちいさなふね』を読み聞かせた際は、絵本のフレーズを真似するほど楽しみ、その絵本を借りて帰るほどであった。幼児期の子どもにとって、絵本に集中し続けるという行為は難しく、読み聞かせなどの経験を徐々に養われていくものである。その一助を担うべく、もっと多くの絵本を知り、経験を積んでいかなければと感じた。

(光藤)

